

令和 6 年度第 1 回都市計画審議会後の意見照会結果

※該当ページは、資料 1 のページ番号に対応しています。

委員名	該当ページ 又は該当地域 (※)	意見内容	回答
	60、69、78、88、 97 ページ	地域の現況 人口グラフ 世帯数グラフ S64 と H5 の間だけが 4 年間となってしまう ている。(S64=1989 年 H5=1993 年) 初歩的な錯誤です	御指摘を踏まえ、グラフを修正します。
	78 ページ	地域の現況 人口 総人口は一貫して増加しています。特 に昭和 6 4 年から平成 5 年までの 5 年間～ 4 年間で正解です	御指摘を踏まえ、グラフを修正します。
	大山地域～ 篠津・西地域	①浸水対策について、西地区、元荒川の影響 は？ ②全壊の可能性のある建物の存在について、 不安である。 ③柴山沼の活用。 ④電線類の地中化は、場所を選んで限定的に。	①河川改修や浚渫などによる水害対策を、埼 玉県等と連携して推進することにより、西地 区などの浸水リスクの低減に努めます。 ②全壊の可能性のある建物が多いエリアで は、旧耐震住宅の耐震改修の補助などにより、 旧耐震住宅の耐震化を促進してまいります。 ③柴山沼の活用については、地域の活性化や 人々の交流に資するような土地利用を模索し てまいります。 ④電線類の地中化については、白岡駅駅前広 場及び周辺の都市計画道路の整備にあわせて 検討するなど、エリアを絞った検討をしてま いります。

		公共交通等の整備 埼玉高速鉄道の延伸 誘致活動を行うか？	埼玉高速鉄道（地下鉄 7 号線）については、白岡市も「地下鉄 7 号線建設誘致期成同盟会」に加盟しており、関係機関への要望等を行ってまいります。
	街づくり方策		
	大山地域	圏央道の南側の土地に工業団地を誘致しては いかがでしょうか。 字芝原（柴山）に工業団地ができたならその社宅 に大山小の北側の土地を利用できないでしょ うか。	工業系土地利用については、関係権利者等との合意形成はもとより、既存の工業団地とのつながりや、周辺の農地や道路交通等への影響を考慮するとともに、関係法令を遵守しながら、適地を選定する必要があることから、総合振興計画の位置付けについても含めて慎重に検討してまいります。
	75 ページ 3－5（1）	既存集落地・既存住宅団地について、他の地域では、「営農環境やゆとりある居住環境の保全」といった方針の記載があるが、篠津・西地域では、特筆しなくてもよいのか。	市全体の方針として、分野別方針（土地利用の方針）で市街化調整区域での「営農環境やゆとりある居住環境の保全」と記載しています。白岡駅周辺地域、新白岡駅周辺地域及び篠津・西地域では、地域内に土地区画整理事業により造成した（造成中の）住宅地があることから、市街化調整区域内の既存集落等の保全に関して特筆はしておりません。 一方、大山地域や東北道東側地域については、工業系土地利用をしている一部を除いて市街化調整区域であり、地域内の様々な場所に集落があるという地域特性から、特に「営農環境やゆとりある居住環境の保全」を地域別構想のまちづくりの方針として掲げています。

	67 ページ 2－5（2）	「バイパスの整備促進を埼玉県に要望します」とあるが、まちづくりの方針としては、「バイパスの整備を促進します。」と記載した方が適切ではないか。	御意見を踏まえ、表現を「促進します」に修正します。
	75 ページ 3－5（2） 85 ページ 4－5（2） 94 ページ 5－5（2） 104 ページ 6－5（2）	上と同様に「埼玉県に要望します」ではなく、「促進します」とした方が適切ではないか。	御意見を踏まえ、表現を「促進します」に修正します。
	大山地域	①畑、自然を利用した取り組みを地域住民が考えて作りあげるのが得策（新白岡地域のエリアマネジメントのように）。 ②農業面では他には見られない特化した取り組みを考える（無農薬野菜、特殊野菜・伝統野菜、農業収穫（祭）体験、家庭菜園→営農者を育成、土に親しむ環境作りなど）。 ③人口 1395 人、世帯数 595（R5）から、H10 から増えてきた世帯数が H30 から減少に転じている（戻ってこない）→住民自身がよさに気づいていない？ ④若い世帯が居住したいと思いたくなる施策が必要（不安払拭）。 ⑤将来、産業団地化が進む予感 ⑥自転車通学路の整備（特に大山地区） ⑦サイクリングロードを柴山沼まで延伸。	御意見を踏まえ、次のとおり修正します。 ③について 実現化方策に「市の魅力やまちづくりの取組等を効果的に発信するシティプロモーションを積極的に推進することにより、市のイメージの向上を図るとともに、市民のシビックプライド（地域への誇りと愛着）の醸成を図ります。」を記載します。 ⑥及び⑦について 分野別方針の「道路・交通」に「通勤・通学、買い物、サイクリング等の自転車利用者にとって安全で快適に通行しやすい空間の確保に努めます。」を記載します。 ①、②、④、⑤については、御意見としてお預かりします。

		①梨畑の多くが失われ、宅地化が進む。 ②幹線道路沿いの開発が進み、市街化調整区域外の畑地も将来、産業団地化する予感→交通量の増加から渋滞問題、大気汚染。 ③県道春日部菖蒲線(爪田ヶ谷線)は普段から日中は渋滞が多い。特に白岡中学校付近は渋滞が多く、新信号機の設置や病院設立で一層渋滞が悪化する予感。	御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 ②及び③について 分野別方針に「新たな開発に伴う交通量が周辺の幹線道路や生活道路に影響を及ぼさないよう指導、助言に努めます。」を記載します。 ①については、御意見としてお預かりします。
	篠津・西地域		
		駅前商店街、中央商店街はシャッター街が多く、東口も駅前の賑わいも少ない→賑わい盛んな商店街は徒歩(自転車)の利用者を想定している。車道が広いと通過で終わり、賑わいはない。	御意見を踏まえ、地域別構想(白岡駅周辺地域)に「店舗等の出店促進や歩行者空間の確保」「ウォーカブルなまちづくり」を記載します。
	白岡駅周辺地域		
		①幹線道路沿いの梨畑が減少。 ②大山地域と異なり、多方面の幹線道路が多く、特に菁莪地区は幹線道路沿いと公共施設周辺は宅地の増加傾向が見られ、それ以外との人口の差が大きい。 ③住宅団地もニュータウン同様、人口の減少対策が必要。 ④集会所が他の地域に比べ多いが、有効利用されているか→地域のコミュニティの場として活用(人を呼び込む)	御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。 ④について、地域別構想(東北道東側地域)に「集会所等活用」を追記します。 ①～③については、御意見としてお預かりします。
	東北道東側地域		

	総合的考察	・「ヘルシーロード」・「水と緑のふれあいロード」などが市内には多く自然環境を目的とした歩道が整備されている（一部荒れた部分も見られるが）。このことから徒歩やサイクリングロードの整備は、市外からの公共交通機関利用者を呼び込むためにも利用度が大きい（「自転車でめぐるしらおか」など）。 ・梨畑が減少し続け、白岡特産（梨の産地）とは呼べなくなってしまう。 ・味彩センターなどの野菜は生産者の名前はあるが、どこの地域のものかあまり知られていない気がする。地区の顔が見える野菜が登場することで地区（地域）に親しみが持てるようになるのでは（白岡新住民は自分の地域周辺しか知らない）。 ・市内には昔から続く地区が多く存在するが、年月とともに新しい住民が多く入ることによってその地区の特色が失われていく感はやがめない。コミュニティを考えることが街の活性化、人口増加、賑わいへとつながっていくように考える。 ・大規模な幹線道路を増やすことは街の活性化につながるのだろうか疑問である→滞在する、住み留まる街ではなく、通過するだけの街になる恐れがある→魅力のない街になる。	「緑のヘルシーロード」や「水と緑のふれあいロード」などの既存施設をうまく活用しながら、地域の活性化等の取組を検討してまいります。 担い手の育成や農地の集約化といった取組により、農地の保全を図りつつ、農産物を通して地域に親しみを持てるような取組について模索してまいります。 新白岡エリアマネジメントの取組のように、地域のコミュニティを生かした取組を今後も検討してまいります。 幹線道路等については整備するだけでなく、その道路周辺の土地利用により、地域の活性化につながるよう、用途地域の検討や沿道サービス施設等の誘導に取り組んでまいります。
---	--------------	---	--

	全般	新たな大規模開発などが想定されている地域については、どこも既存の道路網だけでは交通処理が対応できないと考えられるので、各道路の管理者との協議は当然のことながら、開発区域内での交通処理もよく検討するよう指導が必要なことを明記しておくべきではないでしょうか。 これは各区域に明記する必要はなく、全体構想の中の道路・交通に関する方針に明記してはどうかと考えます。	御意見を踏まえ、分野別方針に「新たな開発に伴う交通量が周辺の幹線道路や生活道路に影響を及ぼさないよう指導、助言に努めます。」を記載します。
---	-----------	--	--